

## 令和5年度 奈良市立朱雀こども園 研究実践概要

園長名 近江 弥生  
全園児数 207名

1. 研究主題 しなやかな心と体を育み、主体的に活動出来る子どもを目指して  
～ “やってみたい” と思える環境と援助のあり方を探る～

2. 研究年度 2年度

### 3. 研究主題設定理由

昨年度は園全体で体幹を育む遊びに取り組み、体の育ちが心の育ちにも繋がることを共通認識できた。子どもは「できた」経験を重ねることで自信をつけ、いろいろなことに挑戦するようになった。今年度は様々な遊びの中で、子どもが“やってみたい”と意欲的に遊べる環境や援助を探るため、研究主題に設定した。

### 4. 具体的な研究内容

#### ①研究のねらい

・子どもが主体的に活動できるように、それぞれの年齢に合った環境構成や援助を行い、しなやかな心と体を育む。

#### ②研究の重点

・遊びや環境の会議を設け、子どもの“やってみたい”と思える環境や援助のあり方を探る。  
・0歳児から5歳児までのつながりのある保育ができるように交流を行う。  
・園内公開保育では環境構成や援助、子どもの思いや行動について話し合い、明日の保育に繋げていく。

#### ③活動の方法

環境構成

保育者の援助

#### <乳児棟>

昨年度の反省から、今年度は<遊びの会議>をもち、「どうすれば子ども達が“遊びたい”と思える園庭をつくれるか」について学年を越えて話し合うことにした。園庭において、年齢に合った安全に楽しく遊べる場を保障する為、どのように空間をつくっていくかを定期的に集まって話し合い、環境を整えていった。

#### <幼児棟>

月に一度の幼児会議で遊びの話し合いをし、各学年でやってみたいと思えるような環境作りを行った。また、昨年度の反省から、学年を越えて遊べるように話し合いをし、季節に合わせて3学年一緒に遊びを楽しめる場を設けるようにしていった。(夏の遊び、運動会ごっこ、収穫祭)

#### <0歳児>

##### 【取り組み】

以前の築山は土山で滑りやすい為、人工芝を敷き0歳児でも安全に登り下りを楽しめるようにした。

##### 【エピソード】「お山に登れたよ」

秋より園庭に出る機会を多くもった。登り方が分かるように保育者が四つん這いで「のっこのっこ」とカメのように築山に登ってみせた。築山の上で「おいでー」と誘いかけたり、一緒に登り「気持ちいいね」と風を感じたりする心地よい経験を重ねていった。

日を重ねると、嬉しそうに築山に何度も登ろうとする姿が見られるようになった。



### 【評価】

園庭に出る機会を多くもつことや、保育者と一緒に築山に登り楽しい経験を繰り返すことにより、安心して遊べるようになり探索活動も広がっていった。これからも子どもが遊びたいと思える環境を整えたり、出来るようになったことを一緒に喜び合ったりし、安心して遊べるように取り組んでいきたい。

### <1歳児>

#### 【取り組み】

園庭に出ると築山に登ってから遊びに向かう姿が多く見られた為、下ったところに1歳児の遊ぶ場をつくり、安全に遊びを楽しめるようにした。春は玉入れやトンネル、秋はマツボックリ転がしや葉っぱのお風呂など、発達や季節に合わせた遊びを用意した。

#### 【エピソード】「もういっぱい!!」

葉っぱのお風呂で遊んでいた子ども達。もっと楽しめるように、落ち葉を集めに行こうと誘いかけると、喜んで桜の木の下へ走っていった。小さな手で、一生懸命拾いながら、「あかーいはっぱ」「きいろいはっぱ」と友達と見せ合ったり、保育者が持ってきた大きな入れ物に一枚ずつ大切そうに入れたりしていた。「わっしょいわっしょい」の掛け声で保育者と一緒に葉っぱのお風呂まで運ぶと、お風呂で遊んでいた子ども達は、「やったー」と笑顔になり、運んできた子ども達は、「もういっぱい!!」と何度も葉っぱを集めようと大きな入れ物を運ぼうとする姿が見られた。



### 【評価】

築山を下りた所に遊び場をつかったことで、子ども達が一か所で遊ぶことが多くなり、友達を意識しやすくなった。また、楽しい環境も目に入りやすくなり、すぐに遊び始めることが出来た。保育者が事前にお風呂に落ち葉をたくさん入れている時もあれば、落ち葉を足したり、一緒に集めに行ったりするなど、一つの遊びの中で様々な楽しみ方ができるよう工夫してきた。また、5歳児のみこしを見たことで、保育者が「わっしょい」と声を掛けると、一緒に言いながら喜んで運ぶ姿につながった。

保育者に見守られながら安心して過ごす中で、少しずつ一緒に遊ぶ楽しさが感じられるようになってきた。さらに、視野が広がってきた子どもにとって、環境をどのように工夫していくか探っていきたい。

### <2歳児>

#### 【取り組み】

園庭の中央にあるクヌギの木が初めて実をつけ、遊びに使う姿があったので、近くにテーブルやキッチンなどを用意し、自然物を使ったままごとと遊びを楽しめるようにした。

#### 【エピソード】「こわさないでね」

自然物を使ったままごと用の環境を用意し、イモ掘りの後は小さなイモやツルを取り入れるなど変化をつけていったことで毎日遊ぶようになり、焼きイモごっこやバーベキューごっこに繋がっていった。楽しそうな様子を見た0歳児がやって来て触ろうとすると、最初は「やめて」と言っていたが、保育者が関わり方を知らせながら一緒に遊ぶうちに、少しずつ貸したり譲ったりするようになった。ある日、砂場で遊んでいたところ、0歳児が来て壊してしまった。普段は自分の物を壊されると大声で泣く子が、「こわさないでね」と優しい声で伝え、さらに砂がかかっても何も言わずに砂を払っていた。保育者がその姿を認め、「優しいね、素敵だね」と声を掛けると嬉しそうに笑っていた。



### 【評価】

園庭中央にままごとコーナーを設けたことで、周りの子どもに遊びが見えやすくなり、これまで興味を示さなかった子が来たり誘い合って遊んだりするようになって、遊びが広がった。また、異年齢児が興味をもって交流するきっかけにもなった。最初は戸惑っていた子もいたが、保育者の援助のもとで繰り返し関わる中で親しみを持ち、優しく関わるようになった。“やってみたい”と思える環境のもとで十分に遊びを楽しむことや、自然な形で異年齢児と交流できたことがしなやかな心に繋がるのだと感じた。

### < 3 歳児 >

#### 【取り組み】

1 学期から砂場で遊ぶことが楽しいと思えるように子どもの姿に合わせて環境づくりを行ってきた。土を柔らかくして大小様々な山をつくったり穴を掘ったりする等、子どもがワクワクとやってみたくなるような仕掛けづくりを続けてきた。

[4~6 月] 砂山、道をつくる、穴を掘る [6~9 月] 水→用具 (シート、透明ホース、ジョウゴ、机、板等) [7~11 月] 自然物、実 (ツルムラサキ等)、花びら

自分のしたい遊びや興味をもった遊び (砂山づくりや型抜き、温泉ごっこ、ごちそうに見立てた遊び) を保育者と一緒にしたり、一人で楽しんだりしていたが、仕掛けてきた環境に触れて、自ら遊ぶようになった。また、友達と一緒に遊ぶ場面が増えていった。

#### 【エピソード】 「登られへ〜ん！」

砂場の横にある山に登ったり下りたりして遊んでいた。その山にたくさんの砂が入り、大きな砂山に変身した。翌日、その砂山で遊べることを楽しみにしていた子ども達は、大喜びで駆け上がっていった。しかし、思いのほか砂がフワフワで足をとられて登れない。足がズボッと沈む感覚を面白がったり、「次は下から走って登ろう」と助走をつけることを考えたり、「よ〜し、僕が上から引っ張るわ」と友達が落ちないように手伝おうとしたりしている姿が見られた。その姿に共感し、保育者も存分に砂山遊びを楽しんだ。砂をシャベルですくう子どもがいたので一輪車を近くに置くと砂を入れ始めた。保育者も入り一緒に運ぶことを提案すると、友達と一緒に砂を入れたり、「順番ね」と声を掛けあったりして一緒に遊び始め、工事ごっこを楽しんでいた。



#### 【評価】

1 学期から仕掛けてきた環境づくりのもと、砂場で砂や水、泥、自然物に触れて面白さを感じ、少しずつ興味を広げながら遊んできた。この経験が今回の砂山での遊びとタイミングよく重なり、砂山で思い切り遊ぶ子どもの姿に繋がった。登りたいという意欲やどうすれば登れるかとチャレンジする姿に子どもの成長が感じられた。また、大きな山だったことが友達との関わりを広げ、面白さを共有したり、一緒に考えたりする場になった。やってみたくなるような環境づくりを継続していくことの大切さに改めて気付くことができた。

### < 4 歳児 >

#### 【取り組み】

園庭に豊富に草花や木の実があったことから、季節ごとに会う自然物に興味をもつ子どもが多かった。そこで、園庭に色々な大きさ、色、形の葉っぱや枝を用意して制作コーナーをつくった。また、秋には 2 歳児と公園にドングリ拾いに出掛けたり、園周辺の落ち葉を拾いに行ったりする機会をつくった。

[4~7 月] 藤の葉、桜の花びら、ナンキンハゼ、千日紅

[9~11 月] ドングリ、マツボックリ、千日紅、数珠玉、キバナコスモス

#### 【エピソード】 「私の帽子みて！」

園庭で遊んでいると、「赤や黄、緑の葉っぱ並んでる！虹みたい〜」と色とりどりの葉をみて話をする子ども達。様々な枝や木の実などの自然物を使いやすいように分類したことで、動物や電車などをつくり始めた。「他にどんなものがあたらいいかな？」と自分で考えられるように聞く中で、「イチョウの葉見つけたよ！」「このドングリ使ってみよう！」と自分で集めたものも制作コーナーで使うようになった。

収穫祭に向けて、子どもと相談し帽子をつくることになった。「帽子にこの葉っぱくっつくかな〜」「ドングリ拾いに行こう！」と制作コーナーでの遊びをきっかけに友達とアイデアを出し合う姿が見られた。そして、自分で集めたものや用意した自然物の中から気に入ったものを選び、オリジナルの帽子が完成した。できた帽子を嬉しそうに被り、「〇〇ちゃんの冠みたい！」「かわいいね〜似合ってる」と友達と見せ合うことを楽しんでいた。



### 【評価】

春より園庭で見つけた自然物を砂遊びで飾りに使うなど、自然物を遊びに取り入れてきたことで、秋になり色々な素材を使って作ったり描いたりする楽しさや、見てもらう喜びを味わうことができた。子ども達が思ったことや考えたことを言葉で表現しながら、子ども同士で遊びのイメージを広げて展開させている姿を今後も見守っていきたい。

< 5 歳児 >

### 【取り組み】

トイやプラスチックケースを使って、コースを作ったり、長くしたりしながら転がし遊びを楽しんでいた。今までの遊びや生活の中での経験を生かし、それぞれが力を発揮し、みんなでやり遂げる満足感を味わえるように環境を整えた。

<p>【5~7月】筒状に切ったペットボトル、ペットボトルキャップ、洗濯バサミ、しょうゆさし 【9~11月】波板、木の板、ドングリ、マツボックリ</p>
---

### 【エピソード】「あっちこっち、飛んでいくなあ」

子ども達が築山に木の板で作ったコースを置いて、バケツ一杯のドングリを一気に転がす遊びを始めた。ドングリが木片にあたって、いろいろな方向に飛び出していった。「あっちこっちにとんでいくなあ」「これでガードしたらいいねん！」と、トイを板の縁にはめて飛び出さないようにした。何度か転がしてみたが、やはりコースから外れた。「他に、どんな物を使ったらいいかなあ」と保育者が尋ねると、園庭を見渡し、トイの代わりにプラスチックケースをみんなで運んできて、板の縁に長く並べた。すると、プラスチックケースが壁になり、コースから飛び出すことなく下まで転がすことができ、「やったー！」と喜び合う姿がみられた。



### 【評価】

継続して転がし遊びを楽しんでほしいという思いがあったため、季節に応じて素材や用具を変化させた。そうすることで、子ども達は主体的に試したり、工夫したりしながら遊びを続ける姿が見られるようになった。また、うまくいかないことに対しても周りの友達に意見を求めたり、それを聞いて試したりして自分達で解決できる力が育ってきた。

## 5. 研究の成果

- ・乳児・幼児ともに年齢を越えて遊びの環境についての会議を行い、子どもの興味や季節にあった環境を整えることができた。乳児は年齢に応じた遊び場を保障することで遊びが広がり、自然に異年齢交流が行えるようになった。幼児は保育者の見守りのもと、子どもが主体的に遊ぶ為に環境を整えたことで、したい遊びを継続するようになり友達との関わりも深まっていった。子どもの様子に合わせて遊びの場や用具を変化させることで、子どもが“やってみたい”と思っ
- ・園内公開保育でも、動画を見ながら環境について話し合った。保育者の意図や子どもの姿を踏まえた上で、明日に繋がる環境づくりや保育者の援助について探っていくことができた。

## 6. 今後の課題

- ・乳児は<遊びの会議>をもち、園庭の環境を整えてきたが、まだ途中の段階である。今後も長期的に計画を立てて取り組んでいきたい。幼児は学年を越えて遊べる場を季節毎に設けたが、その遊びが継続せず、異年齢の関わりが十分にできなかった。来年度は異年齢での遊びを継続し、展開していく中で変化する子どもの姿を追求できるように計画的に進めていきたい。
- ・乳児・幼児それぞれでは子どもの様子を共有したり、悩みについて話し合ったりしていたものの、園全体ではそのような機会があまりもてなかった。0歳児から5歳児までつながりのある保育ができるように園全体で話し合う機会を設け、子どもが“やってみたい”と思えるような遊びの環境を整えて援助していく方法を探していきたい。